

洞爺湖町地域新エネルギービジョン（案）の概要

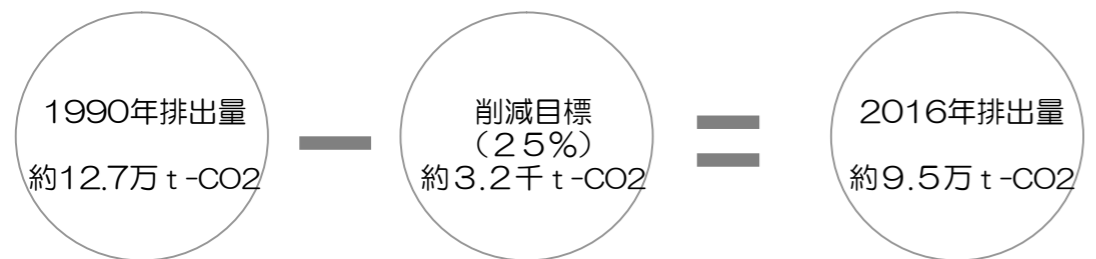
【目的・位置づけなど】

地球温暖化の大きな要因は、石油などの化石燃料の消費によって発生する二酸化炭素などの温室効果ガスの大量排出です。この温室効果ガスの排出量を減らすには、太陽光や雪氷熱などの新エネルギーを利活用することが大切です。

洞爺湖町の恵まれた自然環境を次の世代に引き継ぐことができるよう、地域特性や新エネルギーの存在する量・実用性、経済性を調査・検討し、当町にあった新エネルギーの導入を推進するため「洞爺湖町地域新エネルギービジョン」を策定することとなり、町内外の有識者や団体を代表した方々に策定委員会に参加していただき審議を進めています。

【目標・期間】

町のまちづくり総合計画と同様に10ヵ年構想とし、2016年（平成28年）までに二酸化炭素の排出量の25%削減（1990年比）を目指します。



【対象とする新エネルギー】

対象となる新エネルギーは次の項目です。

新エネルギーの名称	新エネルギーの利用方法など
太陽光発電	昼間の日射で発電し利用。蓄電・売電も可能
太陽熱利用	暖房や給湯設備の熱源、融雪などにも利用
風力発電	小型の風車により一般家庭でも設置可能
バイオマス熱利用	間伐材などを原料に薪や炭を燃料として利用
バイオマス熱利用・発電	家畜ふん尿からメタンガスを発生させ発電や熱利用が可能
バイオマス燃料製造	廃食用油を回収し自動車燃料を生産
温度差熱利用	河川や湖の水、温泉水などを冷暖房に利用
雪氷熱利用	雪を貯蔵し冷房などへ利用
中小水力発電	小河川や農業水路などを利用する小規模発電
地熱発電	深層熱水や蒸気を利用した発電

新エネルギーとは。。。

新エネルギーとは、太陽や風・水といった自然の力をエネルギーとして利用するものや、とうもろこしなどを原料とする燃料、家畜のふん尿を発酵させて発生するガスを燃料に発電するなどといった従来の化石燃料に頼らないエネルギーをいいます。

温泉水や湖水の温度差熱を利用した取組も含まれており、ご存知の方もいると思いますが、すでに洞爺湖温泉利用協同組合の温泉排熱を回収し利用するヒートポンプ事業や、JAとうや湖の雪の融解熱を利用した野菜貯蔵庫（雪蔵）の整備事業などが行われ、温室効果ガスの削減に効果をあげています。

このような施設の整備には初期投資がかかりますが、燃料や電力を使用するよりもランニングコストが低いといったメリットもあります。



JAとうや湖野菜貯蔵施設

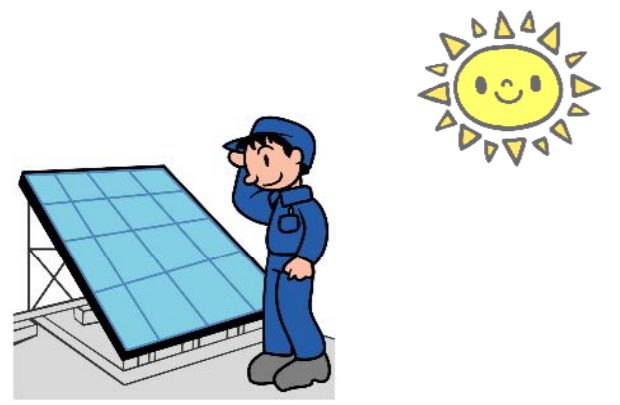
【重点プロジェクト】

目標達成のために、公共施設への導入など町として率先した取り組みを行うことはもちろんのこと、町民みなさんの協力が必要です。そこで、地域特性などを考慮して次の項目を重点プロジェクトとして取り組みます。

新エネルギー啓発活動プロジェクト(太陽光)

次世代を担う子供たちが環境と省エネルギーの大切さについて身近に学ぶことができるように教育施設へ太陽光発電システムを先行して導入するとともに、積極的に情報を公開し、一般住宅への普及の足がかりとします。

町内の小中学校への導入を目指します。



木質系燃料利用プロジェクト

間伐材などを原料に作られる小指の先くらいの固形燃料を暖房や給湯に利用するものです。公共施設での利用を検討しています。小型ストーブもあり一般家庭での使用も可能です。



廃食用油利用プロジェクト

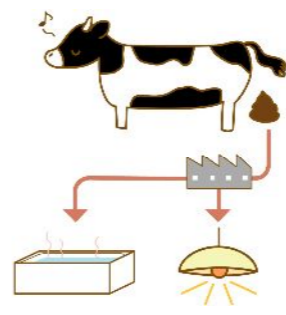
町内の一般家庭から排出される廃食用油を回収・精製し公用車などの燃料としての活用を目指します。

温度差エネルギー利用プロジェクト

空気中の熱を取り込み少しだけ電気を使って圧縮することで、高温にして給湯に利用するシステムです。深夜電力を利用することにより経済性も高い取組です。給食センターなどでの利用を検討しています。

農業廃棄物等エネルギー利用プロジェクト

家畜ふん尿を発酵させることでメタンガスを発生させ、そのガスを発電などの燃料として利用するシステムです。一戸の農家だけでなく、数戸を集約した形での導入も検討します。



新エネルギー普及啓発プロジェクト

新エネルギーの普及のための周知活動や、地球温暖化問題に関する「環境講座」を実施するなど一般住民を対象とした啓発活動に加え、小中学校を対象とした「出張環境教室」を開催し、若年層に対する教育活動を推進します。

すべてはこれからのための取組です。未来もずっと美しい町で暮らせるように！

